

本人ミーティング型の認知症カフェの運営（稲城市）

稲城市 福祉部 高齢福祉課 電話：042-378-2111

経緯

- 稲城市では認知症がある人の家族（介護者）の声を聴く機会（家族会）や居場所（デイサービス）はあるものの、本人の声を聴く機会の不足を認識しながら、平成30年4月より認知症地域支援推進員とともに認知症カフェの開催について検討を開始。
- 近隣市の認知症カフェの見学等を重ねる中で、本人の声を聴く機会の重要性を再認識し、稲城市の認知症カフェは「本人のピアサポートを主たる目的としたタイプ」にすることとし、認知症の人本人が、自身の希望や必要としていること等を本人同士で語り合う場にするものとした。

開始

初年度（平成31年度）はNPO法人ひまわりの会「まちの保健室」（町田市）に運営支援を委託し、6月より「オレンジカフェ矢野口」を開始。

- 毎月、第1・3木曜日、13時30分～15時30分。
- 対象は認知症当事者（診断の有無を問わない）で、参加者は5名
- 認知症地域支援推進員2名、市職員1名、認知症サポーター2名、NPO法人3名程度がカフェの運営に携わる。
- 場所は「ふらっとcaféやのくち」元喫茶店（レストラン）を社会福祉法人が借りるスペース（京王よみうりランド駅から徒歩7分）
- 5月にカフェ開始を周知するため、地域連携型認知症疾患医療センターの医師による講演を含むオープニングイベントを開催。



ふらっとcaféやのくちの様子



話し合っている様子

当日の流れ

- ・13:30～14:00 自己紹介、近況報告、話したいことの提案（チェックイン）。
- ・14:00～15:00 話したいことに沿って、当事者同士で語り合う。
運営に携わる専門職は、当事者の語り合いの進行や疑問に対する情報提供などサポート。
- ・15:00～15:30 今日の感想（チェックアウト）。

カフェで話し合った内容

- ◆認知症ってどういうことなのか ◆早期受診の大切さ ◆認知症が心配な人への接し方
- ◆認知症の開示と受容 ◆本人を理解することの大切さ ◆集まれる場の大切さ
- ◆本人会議の紹介 ◆本人とのかかわり方 ◆家族の大切さ ◆認知症と年相応のもの忘れの違い
- ◆医師の関わりと医療のできることの限界 ◆プライドと認知症の進行
- ◆認知症でなく、その人を理解すること